

えんばわ

66
号

Empowerment For All
エフアジャパン

特集

戦争

その体験と、
記憶の継承と、
復興支援





2022年2月に起こったウクライナ侵攻の悲劇。現在もまだ悲しみは続いており、そこに思いをはせ、心を痛めている方も多いかと思います。エフアジヤパンは、カンボジア、ラオス、ベトナムの子どもたちを支援していますが、この地域を対象とする動機の一つが「戦禍」です。

今号は、戦争について私たちなりに考えてみたいと思います。

Vol.66 CONTENTS

- | | |
|-------|---|
| 03 | 世界の戦争・紛争 |
| <hr/> | |
| 特集 | |
| 05 | 戦禍を語り継ぐーラオスで何があったのかー |
| <hr/> | |
| 07 | 障害のある子どもたちに図書館ができること |
| <hr/> | |
| 09 | 戦争と児童文学 |
| <hr/> | |
| 11 | アジアまちかどライブラリー
ーカンボジアよりー |
| <hr/> | |
| 12 | ムッペアック(クメール語で「仲間」)
ー自治労広島県本部のラオス学校図書館支援ー |
| <hr/> | |
| 13 | サバイディー(ラオ語で「こんにちは」)
ー戦争と児童文学 本の紹介ー |
| <hr/> | |
| 14 | コーヒーブレーク |
| <hr/> | |

今号の表紙

カンボジア 障害がある子どもたちの支援団体CADDP
2022年2月撮影(左側写真とも)。



今も続く世界の戦争・紛争(当法人で調査したもの)

戦争・紛争地域	開始年	概要
ロシアのウクライナ侵攻	2022	ウクライナの親欧米政権を倒しNATO加盟を阻止すべくロシアが侵攻。2014年クリミア半島併合のような一方的な軍事作戦は阻止できたが、長期化してしまう様相。
シリア内戦	2011	アラブの春が契機となり、アサド政権から脱し民主化を訴える運動が蜂起される。アメリカ、ロシア、トルコなどの他国の軍司介入もあり、(一部撤退も)長期化している。
トルコとクルド人	1984	クルド人勢力による自爆テロ事件などが起き、トルコ治安当局は掃討作戦を開始。その後もトルコ軍は軍事行動を続け、航空部隊と地上部隊による攻撃は今なお続いている。
イエメン内戦	2011	フーシ派がハーディ政権に対してクーデターを起こしたことがきっかけ。ハーディ政権を支持したアラブ連合軍(サウジアラビアを中心とする周辺国)の軍事介入に発展。2022年の国連の仲介により停戦に合意。現在、停戦合意2カ月延長中。
タリバンとIS	2021	アフガニスタンと、隣接するパキスタンにて。イスラム国系過激派によるテロ活動と、タリバン勢力による掃討作戦が続いている。
ミャンマー	2021	軍事政権による民主化勢力への弾圧と、反政府活動が再度勃発。ならびに軍事政権の少数民族勢力への弾圧。
エチオピア内戦	2021	反政府軍が首都アディス・アベバ近郊に迫る。反政府軍の後退後、政府が「人道的停戦」を一方的に宣言したが、現時点で正式な停戦交渉の目途はまだ立っていない。
カメルーン内戦	2017	フランス語圏社会に反発する英語圏の住民がアンバゾニア共和国を名乗り、分離独立。政府軍と衝突、英語圏住民への弾圧も報告されている。

出展：外務省、日本貿易振興機構アジア経済研究所、日本貿易保険、BBC ほか



2002年 カンボジア地雷原にて

現在も続いている戦争

今年の2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、日本を始め世界の多くの人を驚かせ、落胆させました。しかし、ご存知のとおり、世界にはこの他にも戦争・紛争が起き、続いている地域があります。

トルコやシリア、またイエメン、アフガニスタン、ミャンマーでも、戦争・紛争が続いています。さらにアフリカでは、エチオピアやカメルーンの内戦は知られています。が、残念ながらそれ以外の地域にも多くの紛争があるようです。

いかなる戦争・紛争も、民間人が犠牲になります。またテロとなると、攻撃の対象があきらかに民間人になります。被害者の中には、必ず子どもなどの弱い立場にいる人たちも含まれており、それを知ると、終戦後も困難が続くことが容易に想像できてしまいます。



2005年 不発弾

終戦後も続く悲劇

エファジャパンは、長きにわたって戦禍の中におかれ、終戦後も極度の飢餓と貧困に苦しむ「ベトナム」「ラオス」「カンボジア」の子どもたちを支援しています。

戦争が終わっても、カンボジアでは、その時埋められた地雷によって、未だに人々が傷つけられています。ラオスは、激しい空爆の影響もあり世界一不発弾が残る国といわれています。ベトナムに散布された枯葉剤の影響は、まだ人々の生活に影を落としています。

なにより心におった深い傷は、いつまでも残り続けます。

今回の「えんぱわ」では、戦争の体験、記憶の継承、復興について考えてみたいと思います。

戦禍を語り継ぐ

ーラオスで
何があったのかー



パンタニシットさんと、ソンバン

当法人ラオス事務所スタッフのソンバン。彼の祖父、チャンディ・パンタニシットさん（94歳、ルアンパバーン県出身）は、1962年に軍に入隊、「戦場」を経験しています。エファが支援しているラオスで、かつて何があったのか、また戦争がなくならない現代社会へのメッセージを、今回語ってもらいました。

① ラオスでの戦争体験

私（パンタニシットさん）は1928年に生まれました。10代の頃は戦争もなく、皆が村や家で平和で幸せに暮らしていました。1962年、母と妹を家に残し、私は、自由ラオス軍（ラオリイッサラ、後のラオス愛国戦線・パテトIIラオ）に入隊しました。銃や武器に触るのも初め

で、多くの仲間（新兵）が、怖さのあまり泣いていました。戦争の相手は主に、フランス軍とアメリカ軍でした。

私たちの軍隊は、森や洞窟で生活していました。村人もまた、昼間は洞窟の中に隠れ、夜に月の下で農作に励みました。昼間は空爆や機銃掃射が行われていたので、洞窟から出ることができなかったのです。洞窟が我々を守ってくれる唯一の場所でした。毎日、毎時間、あらゆる場所が爆撃されました。フランス兵もアメリカ兵も、彼らのルールに従わなければ、動物を殺すのと同じように人を殺しました。友だちも、多くの村人たちも、その犠牲になりました。

1972年、一部地域ではまだ戦闘が続いていましたが、停戦協定が結ばれ、私はようやく村へ帰ることができました。森や洞窟に隠れていた人々も、自分たちの村へと戻りました。私

は右目を失ったことを理由に、村へ戻った後、退役を申し出ました。私の右目は今でも見えな

② 戦争で亡くなった人への想い

多くの村人が銃撃や空爆で悲惨な死を遂げました。家や家畜は焼き払われ、皆貧しく、両親や子どもと会うこともできませんでした。足や腕を骨折し、ひどい怪我を負い、痛みに苦しんでいる人がたくさんいました。彼ら

③ ラオス戦争から50年経つ今も残る戦争の傷跡への想い

私の父は、洞窟の外で作業していた時に爆弾によって亡くなりました。母は爆弾の破片が腕に当たって負傷し、腕が切断されました。

戦争が終わった後にも、被害があります。1979年、当時8歳の甥が家の裏庭で不発弾を発見し、遊びでそれを岩に向かって投げたところ、爆発し亡くなってしまいました。私は今でも、テレビやラジオで戦争のニュースを見聞きすると、その時の光景を思い出します。

④ ウクライナで亡くなられた方、難民となった人への想い

ロシアとウクライナの戦争のニュースを見聞きしていると、戦争の光景が脳裏に浮かんで、とても悲しくなります。ウクライナの人々は、家を捨て故郷を離れ、家族と離れ離れになり、何人も人が亡くなり、何十万人の人が難民になったと聞いています。どんな戦争であっても、犠牲になるのはいつも民間人です。私は、ウクライナの人々のために、戦争が終わるよう祈っています。

⑤ 次世代に向けたメッセージや願い

私は望むことなら、世界が平和で、戦争や殺し合いがなくな

祖父からお話を聞いたスタッフのソンバンより

祖父の話聞きながら、当時何が起ったのかを想像して、とても恐ろしく感じました。私は実際の戦争を経験していませんが、故郷の村には、破壊された洞窟や、爆撃でできた大きな穴があったことを今でも覚えています。

私も祖父と同様に、ウクライナの戦争がすぐにでも終わりを、世界から戦争がなくなすることを祈っています。



チャンディ・パンタニシットさん



野口武悟

のぐち・たけのり

専修大学文学部教授

放送大学客員教授

障害をどう捉えるか

ロシアによるウクライナ侵攻をうけて、エファアジアパンでは「戦争・紛争・大規模災害、そして復興期において子どもたちに図書館ができること」というシンポジウムを6月11日に開催しました。

そこでのお話を紹介したいと思います。まずは「読書から誰一人取り残さないために」というテーマで図書館の役割を語ってくださいた野口武悟さんのお話です。

戦争は多くの障害者を生みます。

日本障害者協議会は、ウクライナへの軍事侵攻を受け「障害のある人にとって、障害発生の最大の原因は戦争による暴力です」「戦争と障害者のしあわせは絶対に両立しません、これは人類の歴史の教訓です」という緊急声明を出しました。

障害の捉え方に「個人モデル」と「社会モデル」があります。個人モデルは、視覚障害や運動機能障害など、その人が抱える障害。社会モデルは、日常生活や社会生活に障壁があり、その除去は社会の責務であるという考え方です。社会モデルの前提が「ノーマライゼーション（共生）」です。誰もが平等に暮らせる共生社会のための主なアプローチが、「バリアフリー」、全ての人を包み込む「インクルージョン」、多様性を認め合う「ダイバーシティ」、障害のある人々が必要の変更や調整を受けられる「合理的な配慮」。これらは国連の「障害者の権利に関する条約」の中にも盛り込まれています。

図書館の取り組み

図書館での取り組みには、バリアフリーな施設作り、対面朗読、郵送貸し出しや移動図書館車などのアウトリーチ、また、視覚障害や運動

図書館では8・5%と低く活用されていません。世界的にはマラケシュ条約が採択され、資料を国際交換する取り組みが進められています。

読書の意義

読書はすべての情報アクセスの基礎になり、生涯にわたり「生活の質（Quality of Life）」に直結します。日本の「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、「子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」と規定しています。これは世界中の子どもたちに等しく重要なことではないでしょうか。

読書を身に付けることができるのは人間だけです。聴く・話すは自然と身に付いても、読み・書きは習わないとできません。開発途上国では「識字」が課題になります。学校や図書館が果たす役割は大きい。障害のある子供たちも含めて、読書から

機能障害、学習障害などで「読むこと」に障壁がある人々のための「アクセシブルな資料」の収集や製作があります。「点字を用いた資料」「音声を用いた資料」「大活字本」「Lブック」「手話を用いた資料」「マルチメディア」「布の絵本」などです。

しかし、アクセシブルな資料を手でできる割合は、先進諸国で7%、開発途上国では1%未満です。「本の飢餓」という言葉がありますが、障壁のため読みたくても読めない状態です。アクセシブルな資料を自由や、図書館で借りる権利の実現は、世界共通の願いです。日本の図書館でもその蔵書割合は非常に少なく、出版点数も限りがあり、ボランティアの力を借り図書館自ら製作していますが、製作数も、取り組んでいる図書館も少数です。製作した資料を全国で共有する仕組みに、サピエ図書館や国会図書館によるサービスがありますが、利用状況はサピエ図書館で16・8%、国会図

誰一人取り残さない視点と実践が、すべての国で不可欠です。

カンボジアでの取り組みへの期待

カンボジアでは、アクセシブルな資料がとてもなく、まず作ることを考え、そのプロセスに障害者、当事者が参加しニーズを汲み取る仕組みが必要です。また、母語、第一言語で読めることも重要なポイントになります。さらに、共有するための仕組みも重要です。

カンボジアではお年寄りが昔話を語る文化があるそうです。たとえば「音書」や「マルチメディア」を利用したアクセシブルな資料を作るために、各地で民話や昔話の採録を行えば、エファの取り組みが知られるきっかけになるかも知れません。

今後の発展のためには、専門の人材を育て、持続可能な形を作る必要があるでしょう。カンボジアから近隣のASEAN諸国などにも取り組みが広がることを願っています。



報告



木村 瞳

きむら・ひとみ

児童文学翻訳・エッセイスト

続いて、シンポジウムに登壇くださったのは木村瞳さん。

戦争をテーマとした児童文学の意義について、具体的な作品や、子どもたちを見守る人への温かな言葉、難民キャンプの読書体験を紹介してくださいました。

様々な角度からの語り口のお陰で、児童文学の多様な世界を感じることが出来ます。

児童文学の意義

戦争という過酷な出来事を、児童文学で描く意義を考えてみます。ひとつは「理解とコンパッション」です。コンパッションは「共感共苦」。悲しみや苦しみ、痛みに対する深い思いやり、その心の動きです。もうひとつの意義は「ボールドクロッシング」。境界のない

戦争と児童文学

実際に、さまざまな戦争に関する児童文学作品があります。「戦禍の中の子どもたちを描いた作品」では、アウシュビッツに収容された子

ジャンルとしての位置付けです。国際リテラシー学会は「ボーダーを超えることは、人類の未来にとって不可欠であり、児童文学はその道しるべとなる可能性を持っている」と声明しています。

児童文学というジャンルは、シンブルな言葉で、普遍的にメッセージを伝える特性があります。また、非常に高い象徴性があり、子ども、大人、民族、性別、政治的立場を超えて、共通の心が提示できます。さらに大人の文学と違い、絵やイラストを使った、温かい表現力を持っています。

ども、疎開生活を描いた作品、亡命生活や、難民キャンプでの暮らし、敵国人との交流など、戦禍の中の子どもたちを、多様な視点で捉え描くことで、「理解とコンパッション」につながる表現がなされています。

日本の作品では、特別な悲劇を生んだ原爆が主題の作品があります。『ヒロシマ 消えたかぞく』は写真絵本という体裁で、写真の持つ力強さが全面に出ています。

戦争からの「復興」のための作品に「子どもの本で平和をつくる イエラ・レップマンの目ざしたこと」があります。レップマンは、国際児童図書評議会（IBBY）の創設者で、「食べ物と同じように本が必要であり、子どもの本で平和をつくりたいと願った」と語り、これはIBBY創設の基になっています。この本ではひとりの登場人物として、子どもたちに本を読み聞かせる姿が描かれています。

エファへの期待

どの作品でも、作家は考えに考え抜いて、自分の信念を込めて描いています。「苦しい、辛い、怖くて書ぎたくない、でも、書かなければいけない、残さなければいけない」とそんな思いが伝わってきます。また、長い時を経て、ようやく言葉になった作品もあるでしょう。

未来へ向けて

ここで、IBBY創立50周年の記念大会での美智子上皇后の言葉の一部を紹介します。「彼らを可哀想な子どもとしてのみ捉えてはならないでしょう。多くの悲しみや苦しみを知り、これを生き延びて来た子どもたちが、彼らの明日の社会を、新たな叡智をもって導くことに希望をかけたと思います。どうか困難を乗り越えている彼ら一人一人の内にひそむ大きな可能性を信じ、この子どもたちを、皆様方の視野に置き続けてください。」

今、エファジャパンのカンボジアでの図書館事業でアシスタントをされているチャトラーさんから話を聞く機会がありました。彼は、難民キャンプ育ち。彼らのキャンプの中での読書は、苛酷な現実からの逃避でもあり、また喜びを得るものでもあったそうで、「読書は食べ物、心の栄養だった」と語ってくれました。また「平和は力で勝ち取るもの」と思ってきた。だが今は違う、平和を守る心と知性を育てるのが、長い目で見たら最も効果的とわかった。この仕事に誇りを持っている」と、戦争からの復興を印象的に語ってくれました。

エファのプロジェクトに参加する子どもたちの中から、チャトラーさんのように将来の図書館サービスを牽引する人たちが生まれることを願っています。



カンボジアより
街角の
クリーニング屋さん

アジア ライブラリ

まちかど



カンボジアの首都プノンペンの路上で大量に服が干されているのを見つけたら、そこはクリーニング屋さん。都会では共働きも多いので、洗濯物を出す人も増えているそうです。出張者にとっても強い味方です。



値段はシャツ、スカート、スーツなどアイテムごとにつけられているのではなく、1キロいくらかという価格帯になっています。ちなみに私が出張時に使ったところは1キロで2000リエル（約67円）でした。（鎌倉 倉倉）



ムペアック

クメール語で「仲間」

エファをご支援
いただいている方々を
ご紹介します。

自治労 広島県本部の ラオス小学校 図書館支援



2020年にラオスのビエンチャン都サントン郡にある4つの小学校に図書室を設置しました。「学校に図書館ができた」「生まれて初めて絵本を読んだ」とラオスの子どもたちは大喜び！

これは、自治労広島県本部の皆さまのご支援により実現できたこと。図書室設置後も、本や文房具の購入、また国立図書館員による追加技術支援提供への協力もいただいています。

今回、その広島県本部より、支援の経緯のお話、またラオスの子どもたちへのメッセージを寄せてもらいました。

自治労広島県本部は、2010年12月、エファジャパンや各単組の協力のもと、初めての取り組みとして「アジア子どもの家訪問事業」に取り組みました。この事業を進めるに当たり、私たち公共サービスの中で、

子どもたちとつながりの深い、保育士や調理員・保健師の仲間と、子どもの家や学校・図書館を訪問し現地の子どもたちと接し、歯磨き指導や踊りなどの交流を行いました。現地訪問を通じて教科書や図書館の本の不足の問題があり、ラオスの子どもたちに必要な教育環境が整備されていないことを実感しました。

訪問の後、今後の支援を検討するにあたり、ラオスの子どもたちが少しでも文字に親しむ機会を支援できないかと、『絵本はだしのゲン』ラオス語翻訳版無償贈呈事業を立ち上げ、3、000冊を2014年12月にラオス・ベトナムに訪問し学校や図書館などに贈呈しました。

その後の広島県本部としての支援のあり方を検討する中で、子どもたちに必要な教育環境や福祉環境が整備されておらず、子どもたちが十分な教育を受け

られないという大きな課題があることで、広島県本部では、子どもたちに必要な教育環境を整備するため、エファの協力のもと、学校に図書室を4室設置し、その後5年間のサポートを実施し、子どもたちの自立に向けた支援を行っていくことを計画しました。（書記次長 山崎由美子さん）

「この図書室での読書を通じて、さまざまな物語を学び、さまざまな事に関心をもち、将来の可能性を大きく広げていく」と願っています。みなさんは限りない成長の可能性を全員が持っています。（中央執行委員長 山崎幸治さん）



はだしのゲンを読む
ラオスの子ども





昨年10月に理事に就任いたしました学頭(がくとう)と申します。
これから1年間、この「COFFEE BREAK」を担当します。どうぞよろしくをお願いします。

さて、今号ではシンポジウム「戦争・紛争・大規模災害、そして復興期において 子どもたちに図書館ができること」の報告をしました。
当日は会場的人数に対し、オンライン参加は約3倍。ハイブリッドが定着し、興味のある催しにどこからでも参加しやすくなりましたね。

一方で、新聞記者の私はリアルの意義を最近改めて考えるようになりました。取材活動は大きく分けて「オン」と「オフ」の2種類があります。録音や個人名での引用が可能なのがオンで、それ以外をオフの取材といいます。

人の本音が出るのはやはりオフの場面です。オンライン取材の機会もありますが、表情やしぐさの微妙な変化を感じながら話を聞けるのは対面ならではのです。最もDX(デジタルトランスフォーメーション)化に向かない仕事のひとつが記者なのかもしれません。(了)

理事 学頭貴子(日本経済新聞社 編集 金融・市場ユニット記者)

サバイディー

ラオ語で「こんにちは」

戦争と児童文学 本の紹介

本誌9頁の木村瞳さんが、「戦争と児童文学」というテーマで本誌のために、
下記2作品を紹介してくださいました。

両方とも、現在入手可能な本ですので、ぜひ読んでみてください。



かあちゃんのジャガイモばたけ

アニタ・ローベル 作/まつかわまゆみ 訳
2018年評論社 定価1540円
ISBN978-4-566-08042-3
POTATOES, POTATOES. Harper 1967.

本作は1967年の作品にもかかわらず、ロシアに侵攻され同じ民族同士の戦いが起きた近年のジョージア、クリミア、ウクライナなどを想起させます。血気にはやって性急に戦闘に赴く若者を、武装化を声高に主張する人々を、象徴させてい

るし、あくまでも大地に根差す生き方を貫く「かあちゃん」と対比させて、その結末を提示しています。作者アニタ・ローベルらしい反戦・平和が前面に出た作品です。最近の世相も重ねて読める作品です。(木村さん)



絵本 おこりじぞう

山口勇子 原作/沼田曜一語り文/四国五郎 絵
1979年金の星社 定価1320円
ISBN978-4-323-00237-8

この作品は絵がすばらしい。抑えた色調と余白がかえって阿鼻地獄のような凄惨さを生んだ原爆の破壊力を読者に想像させます。「こわいものなど描きたくないのだが、こわいものを地上から無くするためには

描かねばならない」という画家の四国さんの言葉が、この本全体のメッセージです。大人の文学では、これほど直接的にテーマを言葉にするのは難しいと思います。(木村さん)

「夏募金2022」 キャンペーン終了が せまっています。



期間：2022年6月21日～8月31日



銀行振込

中央労働金庫 市谷支店 普)1442725 トクヒ)エファジャパン

三菱UFJ銀行 市ヶ谷支店 普)1340692 トクヒ)エファジャパン

郵便振替

00190-6-723415 加入者名)エファジャパン

クレジットカード

「Syncable(シンカブル)」→「エファジャパン」でネット検索

エファジャパンページのキャンペーン「エファジャパン夏募金2022」へ

長い戦争で苦しんだ国々で
今日を生きる子どもたち。
その子たちの
「自分ものごたり」を、
一緒に支えてみませんか。

エファジャパンは、貧困や様々な障害のため学校にいけない子どもたちを支援しています。

学校や地域で、読み書きを学び、情報に触れ知識を増やすため図書館をサポート。親の事情で居場所のない子どもたちのために、児童保護施設事業もサポートしています。

また、本年より障害がある子どもたちへの支援を始めました。自分の力で生きてくための能力(ライフスキル)を学び、身につけられる場所と機会を提供するため、学習施設の設置、教材開発に取り組んでいます。

ご支援キャンペーン「夏募金2022」
でのご寄付は、これらの活動に役立
てます。

えんぱわ 通巻66号(2022・8・秋)
2022年8月15日発行

発行人：伊藤道雄

編集協力：(株)MAG MAG、蒔田清二

発行所：特定非営利活動法人エファジャパン

〒102-0074 東京都千代田区九段南3-2-2 九段宝生ビル3階

TEL:03-3263-0337 FAX:03-3263-0338 Email:info@efa-japan.org

https://www.efa-japan.org/

※エファジャパンは、全国の地方公共サービスに携わる人たちが応援する、国際協力NGOです。アジアの子どもたちへの教育文化支援・福祉支援を行っています。

※認定NPO法人であるエファジャパンへのご寄付は、税制優遇の対象です。